

「もういちど読む山川日本史」山川出版社 2008年8月30日刊を読む

ふたたび日本史を学ぶ読者の皆さんへ

時代の変化が激しい今日、情報としての教養書が求められています。書店には how to モノが溢れ、簡便な知識の切り売りが盛んですが「それでよいのか」との批判も根強いように思われます。そのような状況のなかで、むしろ、仕事に全力を尽くした日々が一段落した人、いま現実の社会に立ち向かっている人、これから新しい道を歩もうとする人のほうが、強い問題意識をもち、鋭い思索の切り口をもっているはずです。いったん立ち止まって過去を振り返り、その成果や問題点を整理し、将来を構築することは決して無駄な作業ではないと思われます。

本書は、以前、高等学校の教科書として使われていた『日本の歴史(改訂版)』をベースにしていますが、一般の読者を対象として記述を全面的に見直し、時代に即応した簡潔かつ明確なかたちに改めました。さらに、現代の理解の手助けになるようなテーマを選択してコラムとし、解説を加えています。また学界の動向を反映させた解説注も導入しました。誰にでも読みやすく、1冊で日本史の全体像を把握できる書物です。本書が歴史のみちすじの理解と、将来像の構築の一助となることを願っています。

#### [コメント]

教養とは何かといえば、自らの国の歴史を学校が終わった後も学び続けることと私は考える。そのためには学校の教科書を生涯にわたって保存し続け、折に触れて読み直すことが一番。この本は保存し忘れた人のために極めて有益。

- 2009年10月10日 林明夫記 -